

# 4・28沖縄デー闘争へ!

2016年4月24日  
No.379

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

## 『政治を取り戻し社会を変えよう!』

### 4/21首都圏新歓講演会での斎藤いくま全学連委員長の訴え

今年の7月に衆参ダブル選挙になれば、私は東京8区(杉並区)から衆院選に立候補し、「新しい労働者の政党をつくる」先頭に立って、職場・キャンパスから闘う労働運動・学生運動を甦らせるために闘います。

特に、「新しい労働者の政党をつくろう」ということについて訴えます。今、「政治の枠組み」そのものを根本的にひっくり返さなければならない時が来ました。

先ほど会場からの質問でも、「『一票の格差』問題など、選挙制度の改善をやる余地はあるので、革命まではやらなくてもいいんじゃないか」とありましたが、そもそも「議会制民主主義」なるものが根本的に欺瞞です。例えば学生運動をやっていて、法政大の門前で私が「退学処分になって～、多くの方々から支援を受けて～」などと演説していると、たまに「そんなことやってないで働けよ」と学生に言われることもあります。それには「あなたも声を上げよう」と返すのですが、その言葉に今の社会での「政治」の真実があります。つまり、「働く人間は政治に声なんか上げない」と彼は分かっているから、そう言うわけです。「政治活動をやる者は働いていない」、「働く者は政治に声をあげない」――これが今の社会の「政治」をめぐる真実の関係だから、そういう話が出てくるわけです。結局、4年に一度選挙をやって、選挙が終われば「黙って働いてください」、「こういう候補者たちがいるんで選んでください」と言われて、「選挙の最中も働いてください」と。もう少し労働者の労働条件がいい時代だったら、まだ選挙についていろいろ言えたかもしれませんが、いま非正規職



が大量に増える状況の中、一日12～13時間働く人が、普段新聞すら読む余裕もない中、突然4年に1回「選挙なので投票に行ってください」と言われても、「いや知らねえし…」となるじゃないですか。僕らは自分たちの日常を通して政治を奪われています。この関係を根本的にひっくり返したいし、それが僕らの訴える「革命」です。労働者が、実際に働いて社会を動かす人間が、社会の主導権をとっていく。これが僕らの革命だし、僕らは「新しい『国民の』党」ではなく、「新しい労働者の政党をつくろう」と「労働者」という言葉を据える理由は、そこにあります。

僕らは選挙を最大の宣伝の場として使うことと同時に、「労働者・学生が自分たちの職場やキャンパスから立ち上がることに本当の力がある」ということを、多くの人に気づいてほしい。みんなが「選挙でどこに入れようかな、とりあえず話を聞いてみますか」という時に、「いや、力があるのはあなたたちなんだ!」と徹底的に訴える闘いを、

### 辺野古への新基地建設許すな! 改憲-朝鮮侵略戦争とめよう!

## 4・28沖縄デー闘争

4月28日(木) 12時半～ 法政大・市ヶ谷キャンパス集合

※13時半デモ出発

16時～ JR新橋駅から国会議事堂へデモ

※15時半集合



7月選挙戦でやり抜く。そのことが非常に重要です。

そこに挑戦することが、沖縄の基地問題、原発問題、労働問題などを解決する非常に大きな最初の一歩になります。沖縄基地建設が典型ですが、基地に一番反対しているのはもちろん沖縄県民です。しかし、沖縄ではだいたい知り合いの誰かは何かしらの基地産業で働いています。基地で働いて賃金を得ないと生きていけない関係に多くの人がある。だから「基地に賛成ですか、反対ですか」「戦争に賛成ですか、反対ですか」と一般論を言われたら、それは「反対です」。でも、「じゃあ実際に基地をなくしましょう」となったら、「俺の働く場所はどうなるの?」となる。基地をなくしたい沖縄県民同士か、生き方をめぐって対立する。結局これは労働の問題ですし、それをのりこえなければなりません。原発問題も同じで、原発立地に住む人たちこそ、原発で働かないと生きていけない経済環境に暴力的に叩き込まれ、それ自体はひどいことなんです。今この瞬間そう生きているからこそ、簡単に反対できない状態。これも労働の問題ですし、僕らが政治を奪われていることが原発問題ではすごく象徴的じゃないかと思います。「原発の安全は第三者委員会がいるから大丈夫」なんて言われて、でも中立のはずの「第三者委員会」は札束をねじ込まれて「第三者」ではなかった。僕は普段、「第三者とは誰か」なんて考える余裕はないし、そういう情報にアクセスすることもできない。しかし実際に労働者を働かせ、それで大金持ちになって余裕を持っている人間たちが札束を「第三者」にぶち込んで言うことを聞かせていた。だから僕らは、労働者が労働を奪還すること、学生がキャンパスから大学のありかたを根本的にうち崩すこと、それがこの社会を変える上で一番重要だと思っています。それ本当に意味ある一歩です。

「野党共闘」で、選挙で「この票をこう調整すれば自民党を倒せて…」みたいなことでは何も変わらない。2009年に民主党が勝った時に「一票革命」とか言われましたし、それ自体は多くの人たちの怒りの決起で意味あることでしたが、でも自民党を倒したはいいけれど、民主党は「第二自民党」だった。消費増税を決めたのは民主党です。結局何も変わらない。それは、僕らの「日常」が変わっていな

いからです。選挙で政治家が変わっただけだから、何も変わらない。今この瞬間、毎日12~13時間働いている人、大学では単位・就活・奨学金、高い学費をめぐって学生が立ち上がることは実際そんなに簡単な話ではない。いろいろなものを奪われながら、でも自分で大学を選んで、勉強したい授業を選んでいるつもりなんだけど、見えないうルールの上を一生懸命走らされているような感覚に僕は陥るわけで、やっぱりそのルールを勇気をもって踏み外していく。このことを私は始めたいし、そういう力で社会を変える、それが革命だと思います。「新しい労働者の政党をつくろう」というのはそういう闘いです。この場からみなさんに「ともに踏み外そう!」と訴えます(笑)。

「展望」とはつくっていくものです。人間が人間である理由は、「ないものをつくることができる」ことです。「できそうなことをやる」のは動物でもできる。例えば、熊が蜂の巣に蜂蜜を取りに行くのは、蜂に刺されてもOKだからです。人間は違います。普通、動物は大きな川があれば越えられません。迂回するか、もしくは一生この川を越えられなくて仕方がない、となる。しかし人間は、団結してその場所に橋をつくる。本来存在しないはずのものを、自分たちの生活条件の中からつくり出して新しい希望をつくる、社会そのものを変えてしまう。次の世代では橋はもう出来ているから当たり前かもしれないけれど、そうやって社会は変わっていくわけです。

選挙権の話もそうです。19世紀のイギリスのチャーティスト運動の最初のスローガンは、“Bullet or Vote”です。「選挙権をよこすか、弾丸を打ち込まれるか選べ!」と言ったんです。弾丸なんですよ、選挙というのは。自分たちの意思を通すため、自分たち自身の代表を選ぶための権利が選挙権だったのに、気がついたら「よりましな人を選びましょう」というすごく意味のないものになってしまっている。だから私たちは、いま怒っている人たちの声を本当に代弁できる、そういう最初の一歩を踏み出すものとして「新しい労働者の政党をつくろう」という選択肢を、自分たちの行動で、「こういう人たちがいるんだ」と自分自身の姿で示すことを始めていきたい。団結して、ともに闘いを開始しましょう!

## 【当面する行動方針】

### ●武田雄飛丸君の早期奪還へ〜4・27勾留理由開示公判

4月27日(水) 13時~ 東京地裁にて ※12時10分に地裁内傍聴券配布所に集合  
11時10分から霞が関一周デモを行います!(11時に日比谷公園霞門集合)

### ●5・15沖縄現地闘争

5月14日(土)~16日(月) ひめゆり資料館見学、沖縄県民大会参加、国際通りデモ、沖縄大で集会(予定)

